

船舶事故調査報告書

令和6年10月2日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和6年3月16日 11時40分ごろ
発生場所	福井県敦賀市敦賀港第2区 敦賀港 ^{まじり} 鞠山防波堤灯台から真方位087° 1,030m付近 (概位 北緯35°40.8′ 東経136°04.1′)
事故の概要	ミニボート（船名なし）は、帰航中、波を船首方から受けて浸水した。
事故調査の経過	令和6年4月15日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ミニボート（船名なし）、総トン数なし（全長2.7m）
船舶番号、船舶所有者等	なし、個人所有
乗組員等に関する情報	操縦者、操縦免許 なし
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 4、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 上げ潮の中央期、水温 約11℃
事故の経過	<p>本船は、操縦者及び同乗者1人が乗り、敦賀市鞠山海水浴場を出発して鞠山防波堤西端北方沖30m付近で釣りをしていたところ、風が強くなり波が高くなって船内に海水が打ち込み始めたので帰ることとした。</p> <p>本船は、出発地に向けて東進中、左舷船首方より波を受けて船内に海水が打ち込み、浸水して水船状態となって船外機が停止し、更に海水が流入して操縦者及び同乗者が船外に押し出された。</p> <p>操縦者及び同乗者は、クーラーボックスに^{つか}掴まっていたところ、鞠山防波堤に流されて、同防波堤に設置された^{はしご}梯子を釣り人の協力を得て上がった。</p> <p>本船は、釣り人から連絡を受けて来援した海上保安庁の救助艇にえい航され、敦賀港第1区に到着した。</p> <p>操縦者は、本事故当日、昼前頃から北風が強くなるとの気象予報を確認していたが、出発時の風は穏やかであったので、風が強くなる前に帰れば危険な状況にはならないと考えていたが、釣果が良く、帰るのが遅れてしまったと本事故後に思った。</p> <p>本船は、船首部及び船尾部の水面から船縁までの高さが、それぞれ約0.4m及び約0.3mであった。</p> <p>操縦者及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>海上保安庁がホームページで提供する Water Safety Guide のミニ</p>

	<p>ボート航行時の注意*¹として次の記載がある。</p> <p>風が強いと船内に波が打ち込むだけでなく、船体が風に流されるため思った方向への移動が困難になります。ミニボートが安全に航行できる範囲は、乾舷の高さ（水面から船縁までの高さ）の半分以下である波高20cm くらいまで、風速では4m/s 以下を目安と考えてください。また、海上で風や波が出てきた場合は、早めに帰航するようにしましょう。</p>
分析	<p>本船は、操縦者が、昼前頃から風が強まるとの気象予報を確認していた中、釣果が良く釣りを続けていたことから、風が強くなり船内に波が打ち込み始めたので帰ろうと航行中、左舷船首方から波を受けて船内に海水が打ち込み、浸水したものと考えられる。</p> <p>操縦者は、ミニボートの堪航性について正しく認識していなかったことから、船内に波が打ち込み始めるまで釣りを続け、帰航の判断が遅れたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、操縦者が、昼前頃から風が強まるとの気象予報を確認していた中、釣果が良く釣りを続けていたため、船内に波が打ち込み始めた中を帰航中、左舷船首方から波を受けて船内に海水が打ち込み、浸水したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>ミニボートの操縦者は、本事故後、安定性を高める目的でサイドフロートを装着した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニボートの操縦者は、ミニボートの乾舷が小さいことを考慮し、気象の変化に十分留意して風が強くなる前に帰航すること。

*¹ Water Safety Guide ミニボート航行時の注意
https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/miniboat/03_attention/index.html